

国際ロータリー第2560地区
ガバナーテーマ

「自らのロータリーストーリーを
作りましょう」

高田ロータリー
今年のスローガン

「善意を深め、
奉仕の力を昂めよう」



インスピレーションになるろ

2018～2019年度

国際ロータリー会長 **バリー・ラシン**
2560地区ガバナー **川瀬 康裕**
高田ロータリー会長 **牧野 章一**
幹事 **佐藤 教彦**

事務局：新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号
TEL (025) 526-3288 FAX (025) 526-3534
メールアドレス：takadarc@joetsu.ne.jp
例会場：デュオ・セレッソ TEL (025) 526-3111

クラブ広報・会報・雑誌委員
堀井 靖功 岩崎 幹男 宮川 大樹

第16回例会 ■ 10月26日(金)

No.16

会長挨拶 ● 牧野 章一



皆さまこんにちは。

10月24日、一昨日は「世界ポリオデー」でした。

ポリオ、急性灰白髄炎、小児麻痺とも言われています。

私が子供の頃、小児麻痺はありました。今、世界で常在国といわれている国は、パキスタン・アフガニスタン・ナイジェリアの三ヶ国です。

症例数は2017年1月1日～10月22日で、パキスタン5件、アフガニスタン7件、ナイジェリア0件（2016年1年間4件）です。

ロータリーが主要パートナーとなっている世界ポリオ撲滅推進活動では、ワクチンの提供とパキスタンとナイジェリアの保険従事者へ携帯電話を支給し、母子の健康に関するデータの管理など撲滅のための情報を共有し非常な効果を出しているそうです。

ポリオ撲滅まで「あと少し!!」。私たちのポリオ寄付金が世界のポリオを完全になくす…へ寄与しています。

今月は米山月間、来月はロータリー財団月間で

す。

皆さまの浄財が世界を変えています。「あと少し!!」どうぞご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

今日の卓話は、インバウンド支援事業 トランス 笹川枝里子様・林 亜沙美様から「上越と世界の橋渡し役」についてお話をいただきます。若い起業家の思いをお聴きください。

出席報告

出席率 98.15%

委員会報告

東山昶也君・佐藤教彦君（10/27 長岡東 RC 創立60周年記念式典）

幹事報告

配布物：週報No.15

回覧：新会員推薦カード1枚

報告：10/30 第14回久比岐能チケットのご案内

S席：2枚 自由席A：2枚

赤い羽根共同募金のお願い

卓話

上越と世界の橋渡し役



初めまして、上越市出身の笹川枝里子と申します。

予定調和で守りに入りがちなこれまでの自分を封印し、気持ちの赴くままに動き、日本では出来ない体験をしてこようと決め、2015年6月、最初の目的地であるシドニー以外は何も決めずオーストラリアに旅立ちました。

シドニー滞在の後、①マーガレットリバー、②バイロンベイ、③Seven Emu Station（セブンイミュー ステーション）を訪れ、それぞれの土地で異なる暮らしを体験しました。

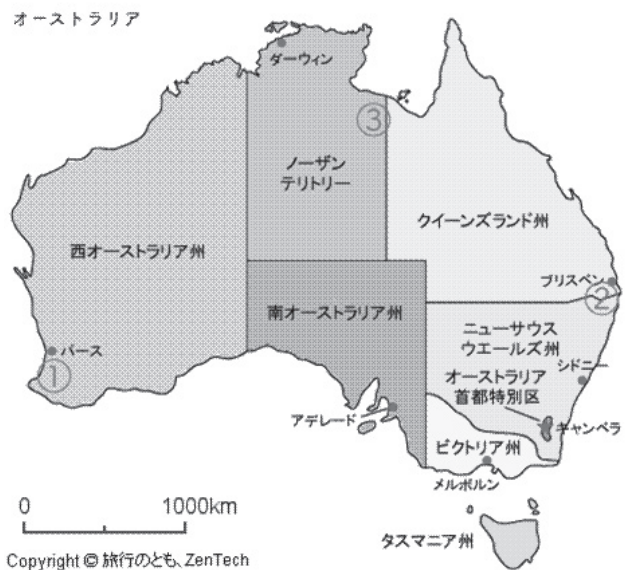
マーガレットリバーでは、1年の半分以上、世界のどこかから旅人が泊まりにやってくるデニスさんの家に滞在しました。様々な文化圏の人を泊めてきた中で嫌なこともあったけれど、それ以上に世界中に沢山の仲間ができたそうです。

ヒッピー文化発祥の地と言われているバイロンベイは、今でこそ国内外から観光客が訪れる人気ホリデースポットですが、その昔は先住民アボリジニの人々にとって Meeting point と呼ばれ、強い癒しの力がある土地として、長い間大切にされてきました。自然に囲まれた小さな村での生活と、職場であるベトナム系オージーのモイさんとの出会いは私の人生観に大きな影響を与えました。

TRANS 笹川 枝里子 様
林 亜沙美 様

最後に向かったのが、アボリジニの家族が経営するキャンプ場、Seven Emu Station です。ここはアボリジニの歴史上で初めて土地を買ったという家族が経営するキャンプ場です。先住民である自分たちのルーツに誇りを持ち、土地と家族を守るため朝から晩まで働くアボリジニの人たちと一緒に生活しました。

国や文化が違っていても、芯の部分（家族への思いやりや仕事に対する姿勢等）は共通するものがあるのだ、とそんなことを肌で感じられたのがオーストラリア滞在での大きな収穫でした。



米山梅吉20代 アメリカでの8年

ロータリーの友⑩より

10月は米山月間です。

米山梅吉は本年生誕 150 年を迎えました。1868（慶応4・明治元）年2月4日、江戸の芝は田村町、植村家家中・和田竹造の三男として出生しました。そして1920（大正9）年の52歳の時、東京ロータリークラブ（RC）を創立し、初代会長に就任します。

ロータリーの友10月号では米山梅吉の特集を組んでいます。「米山梅吉20代 アメリカでの8

年」もその一つです。米山さんより20歳先輩の青山学院長の本多庸一先生が渡米した際、先生が火鉢の灰に火箸で書いた「巧遅」「拙速」の文字・・・功なれども遅し、拙なれども速し・・・など、米山さんが一生の座右の銘としたことなどが掲載されています。まだまだありますが是非「ロータリーの友」でご確認ください。

積んどく？ いや、読んどく 『友』は話題満載